

公益財団法人

宮城県国際化協会

MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION

倶楽部

MIA

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

日本で育った ネパール人の管理栄養士



ドウワディ アバさん

ネパール出身 仙台市在住
東北公済病院勤務



栄養指導の様子

— 来日したときのことを覚えていますか。

2007年、7才のときに腸の病気になり、最先端の医療技術を持つ東北大学病院が受入れてくれ、来日しました。当時、日本に行くことがよくわかっておらず、気が付いたら日本に来ていました。ただ、新幹線の中で車内販売のワゴンを見て「食べたい」と言った記憶があります。継続的な治療が必要なため、来日以来ずっと日本にいます。

— 仙台での生活や家族について教えてください。

私の治療に付き添う両親と来日し、今年の9月で17年になります。小学校に通い始めた頃は外国人だとからかわれることがありましたが、友達が増えるにつれなくなりました。両親の方針で家ではネパール語を話し、一歩外に出れば日本語モードになります。私は小学校から大学まで日本で教育を受けましたが、突然の来日だったので両親は日本語が全くわからず、私や弟よりずっと大変だったと思います。両親は地域の日本語教室でゼロから学び、その後も努力を重ねた結果、今では警察や行政機関で通訳や翻訳をするまでになりました。先日家族でテレビを見ていたら、「木漏れ日」ということばを母が知っていて驚かされました。

家族皆食べるのが好きです。私は作ることも好きで、和食、韓国料理、タイ料理などを作ります。父はネパール料理(おつまみ系)、母はネパール料理全般とお菓子が得意です。弟は料理に興味なしですが、唯一作れる生姜焼きが絶品です。それから、父は畑で野菜を作り、母はベランダ菜園を楽しみ、休日は家族で県内の道の駅や直売所へ地元の野菜を買いに行くこともあります。平日の食卓はネパール料理、週末は和食が多いです。

— 国家資格の管理栄養士の資格を得た経緯を教えてください。

高校生の頃、自分は「食」に興味があると気づき、料理人か栄養士がいいなと思っていました。大学進学後、患者さんの栄養管理法や食事療法、非経口栄養法などを研究領域とする臨床栄養という分野を知り、自分の経験もあったせいかピンと来るものがありました。実は、勉強に苦手意識があり資格試験に向けてあまり集中できずにいたのですが、先生に「これまでの恩返しになるよう親のためにも頑張れ!」と活を入れられて奮起し、無事合格できました。

— 病院での仕事について教えてください。

1年ほど前に就職して栄養科に所属しています。栄養科は食事の面から患者さんの治療と生活を支えることが仕事です。主な業務として患者さん個人や集団向けに栄養指導を行うほか、治療の一環として食事の提供を行うことで、患者さん各々が必要な栄養を負担なく摂取し、残さず食べてもらうために見た目や味付けを工夫するようアイデアを出し合っています。私は業務の1つとして栄養指導を行っており、食生活の改善を必要とする高血圧や糖尿病の患者さんひとりひとりとお話をします。最近やっと慣れてきました。上司から「分かりやすく話すこと。自分が分からないこと、あいまいなことは言わないことが大切」と教えられ、いつも心がけています。先輩方はあらゆることをきちんと丁寧に教えてくださいますし、患者さんに対する話の仕方や知識の多さは勉強になることばかりで、自分の未熟さを痛感しつつも、早く先輩方みたいになるぞというやる気が出ます。

私の勤め先でも外国人の入院患者が増えています。日本の病院のシステムは外国人には戸惑うことばかりだと思います。「食」の面で、外国出身の私が役に立つことがあります。以前、南アジア出身の患者さんが初めて食べるおかゆが味気なくて食べられないと困っていたとき、私が患者さんの嗜好を外国語で聞きとり、カレー粉とパックに入った塩を小皿に出したところ、患者さんの食が進み、ホッと胸をなでおろしたということがありました。

— 将来について考えていることはありますか

日本でキャリアを積むつもりです。まだ母国で治療をうけることが難しく帰国できないこともあります。日本社会に馴染んでいるからです。なぜか見知らぬ人からも日本語以外のことばで話しかけられることは仙台ではありません。子どもの頃から住んでいて、しぐさが日本人と同じだから気付かれないのではと言われたことがありますが、どうなのでしょう。仕事でもネパール語を話し、多文化を知る自分の利点を活かしていけたら嬉しいです。薬に頼るだけでなく「食べることで元気になる」ことを知ってもらうため、まずは、知識を増やし、病気についても学び、患者さんに何を聞かれても答えられるような管理栄養士を目指します。

「みやぎ外国人相談センター」から

Q 私はA国人ですが、免許はB国で取得しました。この場合でも外国免許を日本で運転可能な免許に切り替えることは可能ですか。

A 有効な外国免許を所持していて、その免許を取得した後通算して3ヶ月以上免許を取得した国に滞在していることが確認できれば可能です。滞在期間はパスポートの出入国スタンプなどで確認しますが、それが難しい場合は滞在期間がわかる証明書も必要となります。詳しくは下記のホームページでご確認いただくか、みやぎ外国人相談センターへお問い合わせください。

宮城県警察 免許センターHP※日本語のみ

<https://www.police.pref.miyagi.jp/menkyo/main/gaikoku.html>

みやぎ外国人相談センター

TEL 022-275-9990 月曜日～金曜日／9:00～17:00

◆対応言語◆ 英語、中国語、韓国語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語、日本語



ウクライナ避難民への支援



ロシアのウクライナ侵攻から2年あまり、現在でも日本には2千人を超えるウクライナ避難民がいて、そのうち宮城県には20数名が暮らしています(2024年6月末現在)。この欄ではMIAが行っているウクライナ避難民への支援について紹介します。

一つ目は医療機関での通訳支援です。MIA外国人支援通訳サポーターが医療機関で通訳を行っています。病院に行きたい旨を聞いて、病院探しからお手伝いすることもあります。通訳にかかる費用は宮城県や仙台市から補助が出ています。

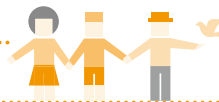
二つ目は日本語学習の支援です。具体的にはMIA日本語講座の受講料を免除しています。現在夜間初級2クラスに在籍しているYさんは、仕事着のまま職場から直行して週に1回のクラスで熱心に学ばれています。



MIA日本語講座で学んでいる様子



シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



第13回 富谷市立明石台小学校 非常勤講師 島田 郁さん

通訳を活用した保護者とのコミュニケーション

担当児童はベトナムにつながるのがあるHさん、小学4年生です。Hさんは幼稚園も日本で通い、幼いときから日本暮らし。わたしがHさんの担当になったのは小学3年生の4月でした。今年が支援2年目になります。小学校入学時からの様子を見て、先生方が彼の学習の困難にだんだんとお気づきになり、支援につながりました。

なぜ、小学3年生になって突然支援者がついたのか、保護者は不安に思われたかもしれません。また、支援者としては、ご家庭での様子など分からないことが多く、支援のヒントが少なかったです。

そこで、支援のヒントを得るために保護者と面談を行いました。MIAにベトナム語通訳をお願いし、ご両親、校長先生や教頭先生、担任の先生、日本語担当者などで数回、実施しました。通訳がいるおかげで、面談は和やかに進み、家庭での様子や言語使用状況、ご両親が心配されていることなどを知ることができました。

また、MIAの外国人児童生徒支援アドバイザーにもご助言いただき、現在も明石台小の外国につながる子どもたちの様子を継続して見ていただいております。大変心強いです。わたしはアドバイザーさんとお話の中で、支援の仕方を反省することが多々あります。

日本語を読めるように、書けるように、教科学習で困らないように……とと思って支援をしていますが、それ以前に子どもは常に言葉にできない不安な気持ちを持っており、頑張ろうと思うことも難しい状況にあることがあります。該当学年の教科学習について行けるように!と気持ちだけが先走ってピンバシ日本語指導をしたくなりますが、まずは、日本語学習室が子どもにとって安心感のある居場所となるように心がけています。

宮城教育大学が行っているオンライン教室にも参加し、学校以外の社会と関わりを持ち、先生役の大学生のお兄さんお姉さんとコミュニケーションをとれることは、彼にとってとても大切な経験だと思えます。オンライン教室のことを楽しそうに話すHさんを見られるのが嬉しいです。

小学校、MIA、オンライン教室……学校内外の協力により、ひとりのお子さんを支えているのだなあと感じます。

先日、4年生の国語の教科書をリライトしたものと、それをベトナム語訳したものを、児童を通じて保護者に持って行っていただきました。子どもと共通したものを読んでいただき、サインがもらえたら十分!と思っていたのですが、なんと日本語の手書きコメントつきで返ってきて本当にうれしく思いました。今後、ますます学校と家庭とが密接な関係になり、協力していけるよう日本語支援者として努めたいと思います。

日本語講座だより 防災について学ぶ会



5月に初級1・2クラスの授業時間で、受講生を対象とした、「防災について学ぶ会」を開催し、受講生7名が参加しました。この研修会は、地震や台風などの自然災害とその備えについて学習する機会を提供することで、防災意識を高めてもらうことを目的とし、とても重要なことなので、3言語(英語、中国語、ネパール語)の通訳をつけて行いました。前半は映像や資料を通して災害に関する知識を学び、後半は日本語講座の鈴木講師による防災の日本語を神経衰弱の要領で楽しく学ぶアクティビティーを行いました。

参加者からは「地震が起きたらすぐに建物の外に出ない方がいいのはなぜか」などの質問があり、母国と日本の防災の違いにも気づいてもらえたようです。



アクティビティーはとても盛り上がりました!

多文化 なトピック

「HIV検査会での通訳支援」

MIAは、昨年に続いて今年も宮城県内で行われるHIV検査会での通訳支援を行うことになりました。これは、「在留外国人に対するHIV検査や医療提供の体制構築に資する研究」(厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策事業)の研究班からの依頼によるものです。外国人向けの申込サイトにて通訳を希望するひとがいた場合には、MIAで通訳サポーターを手配し、当日はオンラインによる遠隔通訳を行います。問診、検査前の注意や確認、検査時、そして結果の告知や個別の相談など通訳がないと難しい外国人も安心して検査できるものと思われま。このように通訳を活用することによって、行政機関が行う市民向けの健康に関する各種サービスが、外国人住民にとってより開かれたものになることを願っています。

MIAの国際理解教育支援事業では県内の小中学校等に外国人講師を紹介しています。このコーナーでは講師が自分の国を紹介する「とっておき」の方法をお伝えします。

第2回 ニカラグア式!?体を使った遊び

小松 リリアナ さん ニカラグア共和国出身

Hola(オラ)! 私のとっておきは身体を動かすことです。なぜなら、大体のことはこの情報化社会で誰でも簡単に調べることができるでしょう?でも、身体を動かす遊びは実際にやってみないと分からないからです。

私はプログラムが始まったら、まず子どもと手遊びをするんです。ニカラグアでは高校3年生になると山間部等に行って、読み書きができない子どもを対象にボランティア活動をします。その時に子どもの集中力を高める目的でこの手遊びをしていました。日本にはたまに疲れたような眠そうにしている子どももいますね。だからテンションを上げて“ニカラグアモード”になるように手遊びを使って導入しています。手遊びの後は、Campaneraという歌に合わせて手や足、腰など全身を動かす遊びをします。みんな楽しくなるとノリノリで歌ってくれます。他にもみんなで輪になって真ん中にノートを置き、合図と同時に早く手を出す遊びなどもしますよ。置くものは別にノートじゃなくても何でもいいんです。パソコンで写真を見せることは簡単ですが、子どもは遊びの中で学べた方が楽しいし、記憶にも残ると思います。

私は長く学校訪問プログラムに参加していて、昔は反応が乏しくコミュニケーションをとることが難しいなと感じることも多かったのですが、最近は子どもがとても積極的に参加してくれて嬉しいです。この学校訪問プログラムが良い影響をもたらしていると感じられた時はやりがいを覚えます。英語ができないとか、外国人とどう話せばいいのかなとか、ネガティブな気持ちを壊すきっかけになればいいなと思っています。



手遊びで導入をするリリアナさん

このセミナーは、地域の日本語教室等での支援のあり方について考えることを目的として開催するものです。ご関心のある方、是非ご参加ください。

- 日時:2024年9月15日(日)13:30~15:30
- 場所:エル・パーク仙台 セミナーホール(仙台市青葉区一番町四丁目11-1 141ビル5階)
- 主催:宮城県国際化協会(MIA)
- 内容:講義・ワークショップ 「実践を見て、感じて、考えよう!~日本語習得につながる対話活動~」

いろいろなトピックについて日本語で話し、相互理解を深めながら外国人の日本語能力の向上を目指す「対話活動」がテーマです。講師が実際に外国人と対話活動をする様子を見てもらい、その後ディスカッションを行うことにより、効果的な進め方について考えます。

◎講師:鈴木英子さん(MIA地域日本語教育コーディネーター/MIA日本語講座講師/東北中国帰国者支援・交流センター日本語講師)

- 参加費:無料
- 対象:県内で外国人の日本語学習支援活動に携わっている方及び関心のある方
- 定員:定員50名(要申込み)
- 申込み:mail@mia-miyagi.jp 次のことをお知らせください。①お名前、②メールアドレス、③電話番号、④所属団体※「MIA日本語サポーター」の方はその旨お書きください。

※文部科学省 令和6年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



みやぎの国際活動団体

宮城善意通訳者の会(MGGC) 会長 伊東 仁さん

当会は、宮城県を訪れる外国人旅行者にことばのお手伝いしているボランティアグループです。外国人からの依頼を受けて、事前にスケジュールや内容を確認、調整した上で案内しています。昨年、松島で真珠の養殖場を見学したいと依頼がありました。残念ながら養殖していないと伝え、代わりに元漁師さんのガイド付き真牡蠣養殖体験ツアーを提案したところ、牡蠣の成長過程をつぶさに見てもらい満足していただけました。

毎年8月の仙台七夕では外国語ガイドを行っていて、今年も仙台駅のブースで英語・中国語などで案内します。さらに「NPOで高校生の夏ボラ体験」(杜の伝言板ゆるる主催)を通じて高校生にも手伝ってもらっています。近年は観光客がSNSから情報を得ているせいか案内の内容も変わり、混雑時でも利用できるコインロッカーの場所や並ばず入れる飲食店の案内が増えました。またこだわりのアイテムを売っている店を聞かれ、スタッフみんなで調べて案内しています。

外国人とのコミュニケーションに興味のある方や身につけた語学力を生かしたい方は、是非ご連絡ください。

入会やガイドの申込は:<https://mggc-masamune.sakura.ne.jp/>



サポーターの声

齋藤 奈美子さん MIA日本語サポーター

私は以前、サウジアラビア出身の留学生シャハドさんのサポート活動をしていました。始めた当初はひらがなを覚えるために、折り紙の裏側に「あか」、「きいろ」などとひらがなを書いて練習したりしました。またある時は、言葉が壁となり、日本人の友達がなかなかできないと話をしてくれたことがありました。なので、私は、「話す」「聴く」ことを大事にしていました。あまり学習という狭い枠組みにとらわれず、アラビア語の本を図書館で借りてサウジアラビアの行事をシャハドさんに教えてもらったこともありました。

シャハドさんが卒業する時は、コロナ禍真ただ中で、ご両親が来日できませんでした。そのため私が花束を持って晴れ姿のシャハドさんのお祝いに駆けつけたことも今ではいい思い出です。当日は、私の姪の振袖を着てくれたんですよ。シャハドさんの卒業・帰国に伴い、活動は終了しましたが、帰国時に「サウジアラビアに来てね。家族ですから。」と言ってくれました。私は国際交流というよりも、困っている人を助けたいという気持ちで活動をしています。若い方々がはるばる日本に来て嫌な思い出ばかりで帰ってほしくないで、少しでも楽しく活動してお役に立てれば嬉しいです。



シャハドさんの卒業式にて

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙 倶楽部MIAの定期送付(年6回)
- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引 宮交観光サービス(株)
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.134

編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

